

様式(細則 5-2)

平成20年10月20日

浜田市議会議長 牛尾 昭 様

代表者 鎌原 ヤシエ

## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察をおこなったので、その結果を報告します。

### 記

1、期 間 平成20年10月14日～15日

2、視察地 岡山県瀬戸内市、総社市

3、参加議員氏名

牛尾 博美

鎌原 ヤシエ

渋谷 幹雄

三浦 美穂

三浦 保法

4、精算額 一人あたり 9,941円

5、調査活動の概要

議員調査研究活動として岡山県内において、医療・教育の分野の先進地である、2市での状況や成果について調査したので、その結果を別紙のとおり報告します。
---

## 調査活動内容

### 1) 瀬戸内市

視察日	平成20年10月14日(火曜日)
視察時間	13:00~16:00
場 所	国立療養所長島愛生園
出席者	藤田 邦雄 園長 清 賢二 事務部長 池内健次郎 入所者自治会元会長
調査目的	長島愛生園入所者の現状や問題点、及び過去の経緯等について

#### ※調査概要・感想

国立ハンセン病療養所は全国に13施設有ります。今回視察した長島愛生園は岡山県南東部の瀬戸内海に浮かぶ周囲16kmの小島で、自然環境に恵まれた療養所で1930年(昭和5年)に設立されています。

1931年(昭和6年)には「らい病予防法」ができ「放浪らい」と呼ばれる人たちだけでなく、すべてのハンセン病にかかった人たちが強制隔離された暗い歴史があります。

昭和20年代に治療薬としてプロミンが使用されるようになると、ハンセン病は治る病気となり、軽症者は退所することもありましたが四肢や顔面の変形が治るわけでもなく、社会の偏見や差別もあり社会復帰は困難なものでした。

1996年(平成8年)「らい予防法」は廃止されましたが、90年間に島で亡くなった人は2万4千人以上もあり、供養塔も建てられています。今はこの法律の廃止で多くの方が入所者に会いに行くようになって県人会との交流も行われています。

2001年(平成13年)「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」で国が敗訴し入所者の権利が明確にされました。

現在の入所者数は364人、平均年齢80歳と高齢化が進んでいます。職員数は17名の医師、150名の看護師を含め393名が医療や介護に携

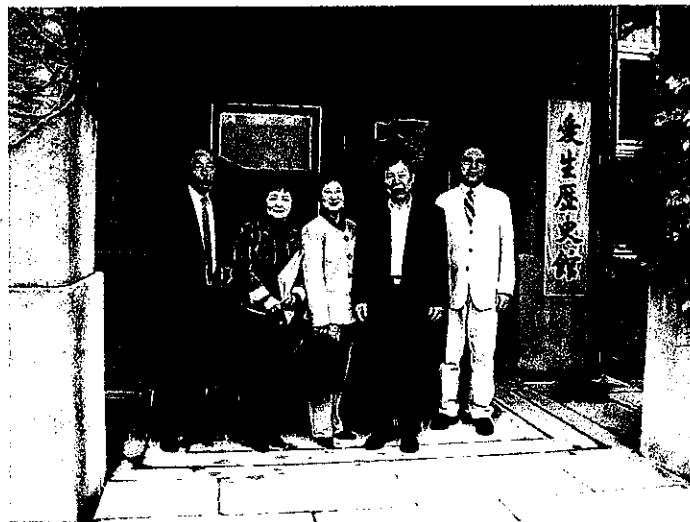
わっています。

療養所は疾患治療の場でもあり、一部の方は後遺障害を持ちながら高齢者疾患に変化しているため、入所者が安心して生活できる場所として整備されてきています。

島根県大根島出身で入所者自治会元会長の池内健次郎さんは13歳、中学1年生のとき強制収容され人権や人間の尊厳を無視された体験談には深い憤りを感じました。二度とこのような間違いを国が起こしてはならないし、私達自身も差別や偏見という心に巣くう人権意識をなくすべきだと実感させられました。

来年の2009年4月より施行されるハンセン病基本法では、入所者の方々の生活保障の充実と、療養所の病院を地域に開放し地域住民との共用も可能となります。

入所者の声が生かされ、希望ある将来構想の実現に向け、私達も支援していきたいと感じました。



## 2) 総社市

視察日	平成20年10月15日(水曜日)
視察時間	9:00~11:00
場 所	総社市立図書館
出席者	久保 直登 館長 守安 正道 議会事務局次長
調査目的	図書館の運営状況と館内視察 ① レファレンスサービスの取り組みについて ② 子どもに係る図書館活動について ③ 生涯学習(特に高齢者)の場としての図書館活用について

### ※調査概要・感想

「岡山県子ども読書活動推進計画、岡山どンドン読書プラン」と整合を図りながら総社市は子どもの読書環境の整備を推進するため「総社市子ども読書活動推進計画」の取り組みをされています。

図書館は鉄筋コンクリート3階建てで駐車場も広く、ゆったりとしたスペースの明るい図書館です。司書4名を含む12名で運営して、市民一人当りの蔵書冊数は2.8冊、貸し出し冊数は5.5冊となっています。(参考資料・・・浜田市の図書一人当りの貸出し冊数は1.64冊)

他の図書館と比べ当館での貸し出し冊数が多いのは、貸し出し図書をより多く利用してもらうため、返却期間内に借りられる冊数の制限を設けていないことです。(参考資料・・・浜田市では2週間でひとり3冊まで借りられるという制限がある)

館内ではインターネットで県内図書館の蔵書が検索できる図書館横断検索システムを備えたホームページを開設しています。また、新着図書や催し物などの情報発信、子ども版「としょかんだより」や市民の方に「図書館だより」を発行しています。

乳幼児への取り組みとして、本との関わりを幼児期の早い段階からもつ

てもらうため、平成14年に幼児コーナーとして「えほんのもり」を整備しボランティアとの協働で幼児向けの事業を定期的にも実施しています。

読み聞かせボランティアは19団体あり小学校、幼稚園の読み聞かせを行っています。また、事業に対して報奨金交付制度もあり子ども読書活動の高揚意識の啓発を図られています。

レファレンスサービスもあり「困ったときは図書館へ」と積極的な資料提供業務をされています。また、生涯学習の場としての図書館の活用については、古文書講座、読書会、ボランティア養成講座等の技術向上研修を実施されています。

今後とも子ども読書活動の推進に力を入れていくためボランティアなどの人材育成とネットワーク化、地域と学校との協働による活動の推進や身近な場所への図書コーナーの設置などで「いつでも、どこでも出合える」をテーマに取り組みを推進していくとのことでした。

浜田市は今新しい図書館建設を待ち望む多くの市民の方の声を受け、図書館建設の実現に向け努力していますが、一日も早い建設になるよう、今後も積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

報告者 三浦 美穂

